

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.12  
平成25年9月26日

## 校長先生頑張ってくださいの言葉に・・・！

「校長先生、手伝いましょうか？」と、優しい声をかけてくれたのは、4年竹組のSさんとUさん。25日（水）の清掃の時間のことです。学校の東門を出た公道のフェンス添いに生えていた雑草をとっていた私に援助の声をかけてくれたのです。

30度を超える暑さと、雑草にくっついていての蟻の攻撃（半袖から出た腕に噛みついてきました）に嫌気が差していた私にとって、二人の温かな援助の手は、何よりも私の励みとなりました。非力な4年生女兒が、一生懸命雑草を引き抜こうとする姿にも心を動かされました。

やがて、清掃終了のチャイムが鳴り、「校長先生、頑張ってください！」と、一言かけて二人は教室に戻って行きました。暑さと運動不足で体力のない私は、へろへろになりながらも、二人の温かい言葉に励まされ、「ここで止めるわけにはいかない！」と力をふりしぼって最後まで除草作業を続けることができました。

**言葉のもつ力は、予想外に大きな力をもっています。自分が何気なく発している言葉が、一言で人を勇気づけたり、傷つけたりします。言葉のもつ力を考えながら、大切に遣っていききたいものです。**

## 言葉が持つ力 大切に考えて

「ありがとう」。たった5文字しかないけれど、人の心を温かくするすてきな言葉。

「ばか」。たった2文字しかないけれど、人の心を真っ暗にしてしまう悲しい言葉。

携帯電話やスマートフォンで簡単に相手に気持ちを伝えられるようになった今、私たちは、言葉について考えることがとても少ない。

自分が普段、発している言葉で周りの人が傷ついていないかと考えてみると、心配になる。言葉というものは、大きな力を持っていると思う。

一言で人の心を明るくするし、一言で人の心をぐちゃぐちゃにしてしまう。わたしたちになくてはならない言葉を、もっと大切に遣わなくてははいけない。

みなさんも、言葉についてゆっくり考えてみてはどうだろう。

戸沢 実歩 中学生14 (岐阜県瑞浪市)  
中日新聞 「ヤングアイズ」より

## 桜小の子は、素直ですね！

26日（木）、ブラスバンド部とバトン部の壮行会が行われました。分離に伴う児童数の減少と担当者の日の出小への異動もあり、伝統ある桜小のブラス・バトンの演技の存続が危ぶまれましたが、壮行会では、そんな懸念を払拭する見事な演技・演奏を全校児童の前で披露してくれました。これは、**担当者の熱意あふれる指導と「伝統ある桜小のブラス・バトンの演技を存続させていきたい」と願う桜っ子の懸命な努力の賜だと思えます。**

一番大事なことは、もって生まれた技能よりも素直な心で指導者のアドバイスや指導の言葉を聞き入れることができるかどうかです。バトン部の指導に来て下さっているY先生が、「桜小の子は、素直だから、教えたことをすぐ身に付けることができる・・・」と褒めてくださいました。ありがとうございます。

私たちは、「自分は人の言葉に耳を傾けているか？」と常に自問しながら、「素直に耳を傾けよう」と心がけ続けていくことが大切であり、それが、自分の成長につながるのだと考えます。